

優先順位	改善項目		改善目標	改善に向けた計画内容	期間	評価(平成18年1月9日現在)
	自己	外部				
1	7	6	共用空間を馴染みの物品を増やし家庭的な環境をする。	家庭や本人から聞き取り、馴染みのものを増やしていく。	その都度	家族や本人からの聞き取りにより、昭和初期の柱時計をかけることができた。今後、も少しずつ馴染みのものを増やしていった。
2	8	7	一人になることのできるスペースを確保する。	不要になった椅子、ソファを確保。ソファの配置の工夫をする。	訪問調査後より	居間のソファを2箇所にしたりにして、1人用のソファを玄関に置き利用者の方が、ひなたぼっこできるようになった。
3	17	13	馴染みやすい時計の設置する。	職員、利用者、家族に声かけてみる。	随時	柱時計を設置した。
4	45	32	栄養バランスを考えた献立にする。	福角病院の管理栄養士から資料を頂いたり助言をしてもらう。	随時	資料を頂き参考にして献立をたてる。
5	50	35	職員はいつもプライバシーに配慮する。	職員同士で点検する。	随時	利用者の気持ちになってさりげなくトイレ誘導をしたい。
6	85	49	利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。	ケアマニュアルを作成し、事故を最小限に減らし、また、救急救命法の講習を検討する。	検討中	ケアマニュアルは作成中。救急救命法の講習の日時を決定したい。
7	97	54	チームケアに取り組むために、職員の声を聞き反映できる。		所長と相談後	
8	128	69	市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託できる。		相談後	